

届け、心の宅急便

小中学生らを対象に、いじめ防止や克服を呼び掛ける朗読活動が続いている横浜市港北区在住のヒロコ・ムトーさん(64)が、県の2009年度ボランティア活動奨励賞を受賞した。全国で「心の宅急便」という名の朗読を始めて2年半。2人の娘がいじめに遭った経験などを交えながら、「いまのままのあなたがいい」と語り掛けている。

(佐藤 将人)

「いつか子どもたちが乗り越えることができたなら、その経験を伝えたいと思っていたんです」

30年前、帰国子女だった長女が幼稚園や小学校でいじめに遭った。次女も中学2年のとき、同級生らから無視される「シカト」に遭った。

ムトーさんは山形市で幼少時を過ごし、青学大を卒業後、結婚を機に25歳で横浜に移り住んだ。夫の転勤で4年間の米国生活から帰国すると、長女に奇異のまなざしが向けられた。

「人はみんな違うのに、日本はどうしてみんなが同じ色

ヒロコ・ムトーさん

県ボランティア活動奨励賞受賞

をしていなければだめなんだろう」。娘が抱えた孤独に胸を痛めた。エッセーやミュージカルを手掛ける表現者として、何かできるのではと考えていた。

転機は2006年、最愛の母が93歳で他界したことだった。

翌年から「心の宅急便」を始めた。2人の娘が遭ったいじめの実体験や、自身が作詞した歌をハープの演奏を交えて語る。これまで横浜市内を中心に、全国約30の学校で思いを伝えてきた。

詞で問い掛ける。「あなたに贈りたい言葉がある 世界

いじめ克服訴え 朗読講演



県ボランティア活動奨励賞を受賞したヒロコ・ムトーさん(右下)と「心の宅急便」にかかわるメンバー

中の誰よりも あなたがい
い「声を殺して泣いた
あの日が今ほうそのよう
友達にならない? このあ
たたかい言葉を いつまで
も忘れない」
児童、生徒から届いたメ
講演会の申し込みは、「心
の宅急便」ホームページから。

ッサージは9千通を超えた。
「いじめに悩む子の『頑張り
ます』という言葉は、もちろ
んうれしい。でも一番は、い
じめと無関係の子が『ただ見
ているだけなのは、いじめに
加担しているのと同じだと気
付いた』と書いてくれる」と
そんな子に、勇気を出して
言ってほしい。「ねえ、友達
にならない?」と。